

追悼 | 平田登志郎先生〈本連盟 初代理事長〉

本年4月11日、平田先生が逝去されました。平田先生は永年バドミントン界発展のため、また教職員連盟のために多大なご尽力をされました。先生が出版された『わが人生の思い出～卒寿への足跡～』をご長男の岳（たかし）さんからいただきましたので、この本を参考に先生の足跡を追ってみます。

先生は大正14年（1925）、北海道空知郡三笠山村に生を受けました。昭和22年3月に北海道帝国大学臨時教員養成所を卒業し、同年4月から室蘭女子高等学校で教員生活をスタートしました。この時にバドミントン部顧問となり、バドミントン生活も始まったものと思われます。昭和24年、学制改革により誕生した室蘭高等学校（翌年、室蘭栄高等学校と改称）に移り、ここでもバドミントン部の顧問となりました。昭和26年には全国大会に出場しています。また、この年、通信制で東洋大学に入学し昭和30年に卒業しています。

全国大会を経験したことや教え子が東京大学に進学したことなどがあり、先生が目が外の世界に向かうようになりました。昭和29年、青雲の志をもって東京に移り、台東区立大正中学校（のちの竜泉中学校）に赴任しました。ここではバドミントン部が無かったので自ら部を立ち上げて、熱心に指導をされました。おかげで竜泉中学校バドミントン部は強豪校に育っていきました。ちなみに東京で一時代を築いた日大鶴ヶ丘高等学校バドミントン部顧問の前田耕作先生（本連盟4代目理事長）は竜泉中学校で平田先生と同僚だった時期があり、そのころにバドミントンを覚えたそうです。

一生懸命部活動の指導をしているもののバドミントン部のある学校が少なくどうしたものかと思い悩んでいるときに、聖学院中学高等学校の今井先（いまいはじめ）先生から「一緒にやりましょう」と声がかかりました。やがて都中体連にバドミントン部を作り、初代理事長になりました。この活動が日本教職員バドミントン連盟創設の動きの一つになります。

昭和34年、文京第二中学校に異動となり、ここでもバドミントン部を作り熱血指導を行いました。昭和36年、日本教職員バドミントン連盟が創設され初代理事長に就任します。そして昭和37年には文京第二中学校を会場に、第1回全日本教職員バドミントン選手権大会と研修会を開催しました。この大会と研修会の二本柱は今に受け継がれています。文京第二中学校の後、数校に異動しますが移った先の学校はどこでも都で上位の成績を収めています。「平田君の行った学校は強くなる」と評判になりました。中でも板橋区立中台中学校は全国大会に出場しています。

生徒の指導のみならず、自らも選手として活躍しました。文京第二中学校時代の昭和34年に東京代表として国民体育大会教員の部に出場しています。全日本教職員大会でも何度も優勝しています。シニア世代になってからは海外の大会にも出場し、平成23年には台湾オープン大会ダブルスで優勝。87歳にして世界最高齢の世界チャンピオンに輝きました。またこの年に永年の活動に対して日本オリンピック委員会から功労賞が贈られています。

平田家はバドミントン一家で、最愛の奥様は日本バドミントン協会公認指導員の資格を持ち、地域の指導に貢献されました。長男の岳（たかし）さんは中学からバドミントンを始め、日大鶴ヶ丘高校から日本大学へ進みました。岳さんの三人のお子さんはジュニアからバドミントンを始め、それぞれ全国小学生バドミントン選手権大会で優秀な成績を上げています。特に長男の昇さんは富岡一中・富岡高校・日本大学と進み、現在も実業団でプレーをしています。

以上、先生の著書を参考にバドミントン人生をたどりました。最後に本連盟創立50周年記念号のJEFNEWSに掲載した先生の文章を紹介します。

連盟50年 誕生の頃を回顧して

次の50年に向かって更なる前進を!!

日本教職員バドミントン連盟
初代理事長（現顧問） 平田 登志郎

いつの間にか半世紀。本連盟の設立に続いて初代理事長の重任を経験した私にとって、50年目という発展と歴史の節目の年を迎えた事は誠に感慨深いものがあります。

連盟設立の頃の、今からみると神話的とも云える諸々の経過～新組織結成特有の生みの苦しみは、今は80歳半ばを過ぎた私にとっては、30代半ばの血気盛んな頃の遠い思い出となりました。

「屋上屋を重ねる・・・」との批判が出たのも、反面には当時の日本のバドミントン界を引っばっていたのが、教員の方々であった事を物語っているものでした。しかし、私どもの「教職員連盟は日本のバドミントン界にどうしても必要不可欠」という信念は月日とともに高まりました。

思えば当時、日バ副会長の森友徳兵衛氏の駿河台にあったご自宅に、故今井 先先生と私が招かれたのが昭和36年（1961）の年の瀬も押しつまった頃だったと思います。そこで森友・今井両氏の「連盟発進」の不退転の決意を承けたまりました。年あけて37年1月の日バ総会で満場一致の可決～同年4月1日、わが教職員連盟は、その新しいスタートを切ったのであります。

話は前後しますが、発足に先立って初代会長として栗本義彦先生をお迎えするべく、今井、森友、私の3名で日本体育大学の学長室に参りました。最初は中々「うん」と云われなかったのが、「全国に在る先生の、教職に在る教え子が待ち望んでいるのですから・・・」と心底からの説得に、にっこり笑って「よし」と受けて下さいました。今井、森友両氏の「ほっ」とされた顔が印象深いものでした。また、昭和31年頃からの同志里見・小泉（弟）や故池田・磯野諸氏と共に、森友（日バ理事長）、今井（常務理事）のご紹介で、お茶の水駅東口の岸体育館（前体協本部）の一室にあった当時の日バ事務局で常務理事会の皆さんに紹介されて、ご挨拶申し上げに参りました。席には岡山の毛利、故人となられた熊本の伊藤、福岡の和田、新潟の市嶋の諸先生（屋上屋の方々）から、新規参入の後輩を暖かく迎える眼差しを感じたことを記憶しております。

翌昭和37年8月（1962）第1回の大会と研修会を東京・文京区、地下鉄本郷三丁目駅前の、当時私の勤務校であった文京二中（現区立本郷台中学校）のコート3面、参加16県の規模で開催にこぎつけました。本年度の第50回の松山大会と比較すると誠に今昔の感ありで、50年の発展の歴史の重みを感じるとともに、JEFの今日あるを期して「連盟発進」の不退転の決意を実現させた今井先先生、森友元日バ理事長の先見と、今は故人となられた諸先輩方や盟友の諸氏の霊に感謝と報告の辞とします。最後に次の50年目、連盟発足一世紀に向かって、わが国、そして世界のバドミントン界に貢献することを祈る次第です。

平田先生、ありがとうございました。合掌。〔文責：稲石一雄〕



第1回全日本教職員バドミントン選手権大会
会場：文京第二中学校



後列右から三人目



平成 14 年・第 41 回山梨大会にて
東京都が総合優勝



平成 17 年・第 44 回栃木大会
レセプション



J E F 50 周年の集い



J E F 50 周年の集い